

別記様式2

副 専 攻 プ ロ グ ラ ム 説 明 書

開設学部（学科）名〔 工学部 〕

プログラムの名称	(和文) 建築副専攻プログラム
	(英文) Program of Architecture and Building Engineering
<p>1. 概要</p> <p>建築学は、建築物やそれを取り巻く環境の創造について、工学的に研究、開発する学問分野である。すなわち、建築設計とそれに関連する都市・地域の計画及びこれらの建設のプロセスを扱い、1個の住宅から共同住宅、様々な商店や事務所ビルなどの業務用建築、集会ホール、体育館、スタジアムなど、多岐にわたる建築物の計画的、環境・設備的、構造的な設計とそれらの配置を課題としている。その中心目標は、個々の人間と人間社会の営みに必要な空間を確保し、制御することである。そこでは、景観の美しいデザインや使い勝手の良さなどの機能性が図られるばかりでなく、地震や火災、風水害などに対して十分な安全性が確保されている必要がある。さらには、地球環境に及ぼす負荷の減少や自然環境との共生、審美的な価値や快適性の向上についても検討されなければならない。</p> <p>建築副専攻プログラムでは、こうした建築という学問分野の概要を理解し、建築を構成する計画、環境・設備、構造の各分野に関する専門的な知識・技能を理解・修得する上で必要となる基礎的科目群を提供する。又、その成果を具現化する建築設計製図について、基礎的演習を行う。</p>	
<p>2. 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築分野の概要およびその社会的役割の理解 ・計画、環境・設備、構造、生産各分野に関する基礎的知識の修得 ・建築設計製図に関する基礎的知識・技能の修得 	
<p>3. 登録時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムは2年次以降に選択することができる。 ・プログラム登録は履修開始前の登録（事前登録）とする。 	
<p>4. 登録要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムを選択するためには、教養教育科目における下記の基盤科目を修得していなければならない。 微分積分学I、微分積分学II、一般力学 I ・施設、設備の関係上、受け入れ人数は、若干名とする。 ・建築主専攻プログラムの学生は、本副プログラムを選択することは出来ない。 	
<p>5. 受入上限数</p> <p>3名</p>	
<p>6. 授業科目及び授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ※授業科目は、別紙の履修表を参照すること。 ※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。 	
<p>7. 修了要件</p> <p>別添の履修表の中から、すべての必修科目を含めて、20単位以上を取得すること。</p>	
<p>8. 責任体制</p> <p>建築主専攻プログラム担当教員が担当する。</p>	

9. 既修得単位等の認定単位数等

(1) 他大学等における既修得単位等の認定単位数等

既修得単位等の認定は行わない。

(2) 広島大学における既修得単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)の認定単位数等

20単位 (但し, 別添の履修表の授業科目のみ)

【副専攻プログラム履修に関する注意事項】

○主専攻プログラムの授業時間割の関係で, 登録した副専攻プログラムの授業科目履修が制限されることがある。

○副専攻プログラムで開設されている授業科目も, 本学共通の平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

科目区分	授業科目	単位数	履修指定	毎週授業時数								備考	
				第1年次		第2年次		第3年次		第4年次			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
専門教育科目	建築材料	2					2						
	建築一般構造	2	必修			2							
	建築設計製図Ⅰ	2	必修			6							
	建築設計製図Ⅱ	2	必修				6						
	建築構造力学Ⅰ	4				4							
	建築構造力学Ⅱ	4					4						
	鉄筋コンクリート構造	2						2					
	建築行政	2						2					
	建築計画Ⅰ	2				2							
	建築環境学Ⅰ	2				2							
	鋼構造設計基礎	2					2						
建築図学	2				2								

全ての必修科目を含め、20単位以上履修のこと